

## 八ヶ岳 天狗尾根 山行報告

(山城) 八ヶ岳連峰

(コース) 天狗尾根

(日時) 2018年1月22日～24日

(天候) 曇り又は雪

(参加者) 松原、前田

(山行タイム)

1月21日(日)

20:30 出発→23:30 美し森駐車場→車中泊

1月22日(月)

6:00 起床→8:00 駐車場出発→10:10 出合い小屋→薪作り→12:50 取りつき偵察出発→13:00 天狗尾根取付き→13:20 天狗尾根本日最高点→下降→13:30 天狗尾根取付き→13:35 赤岳沢出合→13:50 現現沢出合→14:30 権現岳東稜取付き→下降→15:10 出合小屋→21:50 就寝

1月23日(火)

3:00 起床→5:30 小屋出発→9:30 カニのハサミ手前→撤退→12:15 出合い小屋→20:00 就寝

1月24日(水)

2:30 起床→5:00 小屋出発→8:30 カニのハサミ手前→9:30 小岩峰取付き→12:00 小岩峰上→13:30 大天狗基部→14:10 大天狗上部→下降→15:40 小岩峰取付き→17:20 出合小屋→18:30 小屋出発→21:00 駐車場到着→24:30 帰葉

(山行報告)

今季の冬は八ヶ岳で修行だ、と去年から意気込んでいました。年明け前からちょこちょここと八ヶ岳に通い、今回はようやく厳冬の八ヶ岳。やっと本番の時期が来たと、3日間の休みで天狗尾根と権現岳東稜を計画しました。一日目に各ルートの取り付き確認、二日目に天狗尾根登攀、三日目に権現岳東稜登攀の予定でしたが、厳冬の八ヶ岳は想像以上に厳しく、二日目の天狗尾根では樹林帯を抜けたところで敗退、三日目は権現岳東稜を諦めて、天狗尾根のリベンジを試みるも主稜線手前で引き返すことになりました。冬季登攀の厳しさを思い知った山行になりました。

1月21日(日)

19時頃に支度を済ませて自宅を出発。前田さんとの合流場所に向かうが、のこぎりとナタを忘れたのに気づく。地獄谷の出会い小屋には薪ストーブがあるが、前回訪れたときにはツェルト泊だったので使用できず、今回使えるのを楽しみにしていた。仕方ないのでホームセンターに寄ってのこぎりとナタを購入。閉店前に間に合ってよかった。

20時半頃に前田さんと合流して、八ヶ岳地獄谷へのアプローチの始点となる美し森観光案内所の駐車場へ。23時半頃に到着。車の中でお酒を飲んで、そのまま就寝。

1月22日(月)

6 時頃に起床。身支度を整えて 8 時出発。林道をしばらく歩くと堰堤がある。3 つ目の堰堤で林道は終わり。あとは川に沿って渡渉を繰り返して歩く。渡渉といっても川は雪で埋まっているので、水は見えないが、雪を踏み抜くと足を水ぼちやするので恐ろしい。行きでは大丈夫だったが、帰りには二人とも数回ぼちやした。さらに堰堤をいくつか越える。ベルグラのついた堰堤がいくつかあり、氷柱のできたものもある。暇なときに遊んでみたい。

荷物が重いのと昨夜の酒が残っているのとで、朦朧としながら必死で歩き、2 時間強で出会い小屋に到着。荷物を下ろしてさっそく薪を集めにかかる。枯れた枝を折ったり、枯れ木を切ったり、薪割りには備え付けのつるはしを使用。斧でなくてなぜつるはし？使いにくいがだんだんと使い慣れてくる。二時間ほどで二日分の薪を用意できた。小屋までのアプローチよりも疲れた。

少し休んで荷物を整理してから 13 時頃に各ルートの取り付き確認へ出発。まずは天狗尾根。土日の天狗尾根にはだいぶ人が入ったのだろう、トレースはきっちり残っている。赤岳沢を 10 分ほどつめると右岸にある天狗尾根の取り付きに到着。尾根の取り付きに生えた木にはテープで案内看板。さすが人気ルート、わかりやすい。尾根の側面をトレースに沿って登るとすぐに尾根上へ。尾根を 10 分ほど登ってみてから引き返して権現岳東稜の取り付きへ向かう。

赤岳沢の出会いまで戻り、今度は本谷を遡る。こちらの沢にはあまり人が入っていないようで、トレースは無し。少し登ると本谷と権現沢の分岐、左の権現沢へ。雪が深くなり膝上程度のラッセルに苦労しながら登っていき権現岳東稜の末端に到着。尾根の取り付きは権現沢左俣を少し遡った左岸にある。夜明け前のヘッドランでも迷わないよう、分岐に目印の赤旗を刺し、さらにいくつかの赤布を木に巻く。これで分岐に気づくでしょう。左俣を遡る。雪はさらに深くなりラッセルに苦労する。トポによると一つ目のゴルジュを抜けてすぐ右手のルンゼが尾根の取り付き。ここじゃないとか、あそこら辺とか迷いながら進むと、間違いなくここだという場所に到着。トポの記述は適確だ。赤岳沢の出会いからここまで 1 時間。ここに赤旗を 2 本刺して引き返す。

15 時過ぎに小屋に戻り、ビールを飲みながらストーブに火を起こす。火の扱いには慣れているつもりで舐めていたのだが、なかなかうまくいかない。1 時間ほどでようやく安定した火種ができた。慎重に薪をくべながら夕食の準備。ジャ



地獄谷に向け  
駐車場出発



つるはしで薪割り



天狗尾根取付き。  
木にテープの案内  
看板。



権現岳東稜の取付きに目印の赤旗、  
ルンゼを見上げる

ンケンの結果、今夜は松原のトマト鍋。重たい思いをした甲斐あっておいしい。飲んで食べてしながら明日の準備を始めると、行動食のパンが荒らされているのを発見、前田さんの仕業ではないらしい、ネズミにやられたようだ。22 時頃に就寝。今夜は我々だけで小屋を独占できた。

1 月 23 日(火)

前田さん 3 時起床、松原 3 時半起床、寝坊してすみません。ストーブには熾火が残っていました。トマト鍋の残りをガスコンロで温め、サトウのご飯を入れて夕飯と同じくおじや。少し余った。ネズミには昨晚のうちにまたチーズを与えてしまったらしい。ネズミの手の届かない所に食べ物をぶら下げて、5 時半に小屋を出発、ヘッド点けて天狗尾根へ。6 時半頃に尾根上へ到着。うっすら明るい。歩き出し、尾根上にはまだトレースが残っている。登っていくとだんだんと雪が深くなりトレースがわかりづらくなってくる。トレースを踏み外して雪を踏み抜いても序盤はすぐにトレース上に戻れたが、だんだん雪が深くなり、トレースが消えてくると大変なラッセルになった。基本膝上、深いところで股下から腰上程度、傾斜が強いところでは目の前にある雪を崩しながら進む。苦労しながらやっとのことで樹林帯の抜け口へ到着。カニのハサミが見える。ここで 9 時 40 分。

岩稜帯の天気は大荒れ。すぐその岩稜帯に出るとすごい風雪で、雪が目や目の周りの素肌にバチバチ当たって痛い。保護のためにサングラスをかけてみる。サングラスをかけても痛い。しかもすぐに曇ってしまう、さらにそれがすぐに凍ってしまい、視界が効かず使えない。ゴーグルがあれば防げるのだろうか。そしてものすごく寒い。今まで経験したことのない寒さ。冬の八ヶ岳は寒いと聞いてはいたが、こんなに寒いとは。強い人はこんな状況でも登るのだろうか。わからないけど我々には無理。今日は敗退して明日リベンジすることにする。山行管理に予定変更を連絡するため、携帯電話の機内モードを解除して電波を確認する。電波はある。山行管理に予定変更を連絡して下山開始。下山中に確認したところ、天狗尾根のわりと下の方まで電波はありました。下りてくると風は落ち着き、だんだんと気温が上がって汗ばんでくる。12 時過ぎに小屋に到着。

暇な時間ができたので、近場の滝のアイスや堰堤のベルグラに登りに行こうなんて話も出たが、結局は出かけずに小屋で過ごした。お酒を飲みながら、朝食の残りや持参したおつまみを食べ、ストーブに火



トマト鍋、しめはおじやにチーズ



天狗尾根、  
ラッセル



樹林帯抜け口、  
カニのハサミが見える

を起こしてだらだら。暗くなってきたので夕食の準備。今夜は前田さんの豚汁。具がたくさん入った贅沢豚汁。しめはうどん。20時頃に就寝しようとしているとネズミが現れた。小さくてかわいいのでなんだかほっとした。今日の小屋も我々だけの貸し切りでした。



1月24日(水)

前田さん2時半起床、松原3時過ぎ起床、ごめんなさい。今日も朝食は夕食と同じ豚汁うどん。お腹いっぱい食べた。身支度を整えて5時出発。トレースは残っている。尾根上では風の通るような場所のトレースは薄くなったり消えたりだが、昨日よりは断然歩きやすい。しかし風が昨日よりも強いようだ。尾根の上の方から風の音が聞こえる。今日も登れないのだろうか、他に転戦すれば良かったのかもなどと考えながら登り、8時半に樹林帯の抜け口に到着。やはり風がすごい、登れる気がしない。しかし降雪は無いようだ。ここからカニのハサミを抜けて小岩峰まではすぐそこ。敗退するにせよ、せめて岩壁を見てからにしようと話し、できるだけ着込んで小岩峰へ。



樹林帯を出て、前田さんのあとに続いてカニのハサミへ。ここは左側を巻いたが、一部岩がせり出している、さらに先には小さいナイフエッジ状。前田さんはひよいひよい、松原はじりじり。怖い思いをしたらすぐそこは小岩峰。登ることに決定。ハーネスを着けてガチャガチャ着ける。ロープを一本結んでクライミング開始(今回用意したロープはダブルの60mを2本だが、使用したのは下降を含めて1本のみ)。

#### ・小岩峰1ピッチ目

松原リード。壁は短いが、雪を払ってホールドを探したり、バイルの刺さる草付きを探したり、なかなか難しい。岩壁上の灌木でビレイ。

#### ・小岩峰2ピッチ目

コンテ。前田さん先頭で歩きの稜線。上部岩壁の手前の灌木でビレイ点構築。

#### ・小岩峰3ピッチ目

本日の核心。松原リード。前田さんは新調した靴が合わず、調子が出ないようでリードを譲ってくれた。ありがとうございます。稜線から岩壁正面の浅いルンゼを登る。



壁を眺めるとランナーをとれるようなところが見つからない。草付きにイボイノシシを打って登るかな。イボイノシシを取り出しやすいようにラッキングしてクライミング開始。出だしから悪い。一個目のランナーは岩壁最下に飛び出た岩にスリングをタイオフしたが、抜けそうで不安、しかし無いよりまし。そこから直登するか、またはやや左にある灌木を経て進むか悩む。なんだかんだしていたら、うっかり左手の手袋を落としてしまう。木に引っかかって止まったので拾いに行ったが、手袋の中は雪だらけ。雪を払って着けたが冷たい。登り返しはまた辛いラッセル、拾いに行かなきゃよかった。やっとの思いで岩壁の取り付きに戻る。前田さん、ビレイでじっとして寒いだろうに、余計な時間をかけてどうもすみません。登攀再開、ルンゼ正面直登を選択。雪を払ってホールドを探る。草付きっぽいところにバイルを刺す。雪を落とすとたまにクラックが出てきてカムが効く。ランナーは出だしの岩へのスリングのあとは全部でカム3つ、下からリンクカムの紫・黄・赤、イボイノシシは使わなかった。上に登るにつれて草付きが多くなり、バイルを効かせやすくなってくる。やっとの思いで岩壁を抜けて安定した雪稜に立ったところで、冷えた両手の中指がとても痛み10分ほど悶える。あとは稜線を少し登って灌木でビレイ。前田さんを迎えてからロープをしまい上部へ向かう。



小岩峰の上部岩壁終了点にて、  
辛い

稜線の左手側(本谷側)は切れ落ちていて怖い、右手の赤岳沢側の傾斜は緩いが雪が深い。ルートは左手にとるのが正解なようだ。怖いが歩きやすい。少し登るとすぐ岩壁があらわれる。この岸壁の左を巻いたところにあるルンゼ状の左部を登ると大天狗。大天狗は岩壁の左側も登れるらしいが、我々は一般的な右側のバンドに向かって登ることとする。ルートどりに悩みつつもバンドに到着。バンドで前田さんと合流した頃に降雪が始まり、暴風雪が目周りにバチバチ当たって痛い。とりあえずバンドを右へ回り込んでルート先の先を見に行く。あとは雪稜を少し進むと主稜線のはず。視界の悪い中、右手に見栄えの良い小天狗がうっすら見える。天気は大荒れ、時折ホワイトアウトする。時刻は14時少し前。ここから主稜線に抜けてツルネ東稜を下降するとして、順調にいてもツルネ東稜を下降中にヘッデン。未経験のツルネをヘッデンで無事に歩く自信は無い。主稜線には出ずにバンドから引き返すことにする。



大天狗

懸垂下降を数回で15時40分に小岩峰下部へ到着。樹林帯の安全地帯で山行管理に連絡。もう危険の無いことと下山時刻が遅れるであろうことを報告。装備を解いて天狗尾根を下り小屋へ向かう。17時20分、真っ暗になる前に小屋に到着。小屋に入ると他人の荷物がある。帰り支度をしていると二人組のパーティーが戻ってきた。旭岳東稜を登ったが、悪天のため途中で引き返したらしい。今日から数日間泊まる予定だそうだ。

懸垂下降を数回で15時40分に小岩峰下部へ到着。樹林帯の安全地帯で山行管理に連絡。もう危険の無いことと下山時刻が遅れるであろうことを報告。装備を解いて天狗尾根を下り小屋へ向かう。17時20分、真っ暗になる前に小屋に到着。小屋に入ると他人の荷物がある。帰り支度をしていると二人組のパーティーが戻ってきた。旭岳東稜を登ったが、悪天のため途中で引き返したらしい。今日から数日間泊まる予定だそうだ。

18時半、真っ暗な中ヘッデンを点けて小屋を出発。先ほどのパーティーが今朝につけたであろうトレ

ースが残っていて、とてもありがたかった。駐車場までは 3 時間強かかったが、トレースがなければもっと時間がかかっただろう。小屋から 2 時間ほどで林道に到着、ここまでくれば完全に安全である。携帯電話の電波はあるようなので山行管理に下山連絡をする。あとは単調な林道歩きだが、ここからが長い。単調な林道をだらだとひたすら歩く。道を間違えたのかと思って不安になりつつ、しばらく歩いて 21 時に駐車場に到着。車が雪で埋まっているだろうと覚悟していたが、大した積雪はなく安心しました。駐車場から無事に脱出して、凍った路面をそろそろと運転して、帰葉は 24 時過ぎになりました。

一年前から予定していた八ヶ岳での修行のつもりでしたが、冬季登攀は思っていたよりも過酷でした。経験してみて、これは私の手に負えるようなものではないと感じた瞬間もありましたが、なんとか目的の岩壁を登って帰って来ることができました。ここでめげずに、登り続けたいと思います。

---